

1 単元名 表現 「対決！」

2 運動の特性

(1) 一般的特性

自己の心身を解き放して、イメージの世界に没入してなりきって自由に踊ったり、表したいイメージをもち、自由に動きを工夫して踊ったりすることが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性 ～省略～

3 仮説と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点および学習の手立て

<視点1> 子どもの実態を的確に把握し、運動の特性と指導内容を明確にした上で、子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようねらいや道すじ（内容）・活動を工夫する。

【題材の取り上げ方】

○ 学習経験を大切にしたい題材の取り上げ方

「表現」の学習では、題材（表現の動機や基底となり、主題となる材料）の取り上げ方が大切である。題材をどうとらえるのかということが、イメージを想起し、そこにふさわしい動きがうまれてくると考える。

題材の内容選択の視点やイメージの深まりについて村田（1998）²⁾は以下のように述べている。

【内容選択の視点】

- ① 子供のやりたいもの（興味・関心のあるもの、生活体験や感動のあるもの、内容自体の新鮮さや想像力をかり立てるもの）
- ② イメージと動きの関係がつかみやすいもの（動きの特徴がつかみやすく、動きの見通しがたつもの、動きやすいもの）
- ③ 多様なとらえ方ができて発展性のあるもの（多様なとらえ方や工夫ができ個性が生かせるもの、心情との重なりも可能で作品への発展性が大きいもの）

【イメージの深まり】

- ① 事象や動き自体の面白さがテーマになる段階（直接的イメージの内容）
- ② 事象や動きが心情とかけ合わされる段階（両者のかけ合わせ、行き来）
- ③ 心情が事象や動きを通してシンボル化される段階（間接的イメージが内容）

高学年は、ものの感じ方や好みが多様化し、男女差や個人差が顕著になってくる時期である。動きについては、動きの変化がとらえやすく、起伏のある表現への発展を含む題材を取り上げ、また心情も重ねて表現することも可能になってくる。「表現」の学習のねらいとして低学年では、『そのもの（題材）になりきって全身の動きで踊る（題材例：動物や乗り物など）』、中学年では、『題材の特徴をとらえて多様な感じを表現する（題材例：○○探検や忍者、○○づくりなど）』という、学習経験を積み重ねてから高学年の学習に入れば、より動きの楽しさや友達と踊る楽しさにふれることができるであろう。しかし、実態を調査したところ、本学級の子どもたちは前学年までに「表

現」の学習において、学習経験が浅い実態であることがわかった。

そこで本単元では題材の取り上げ方を、表現の学習における「はじめの段階」にあたる、題材『対決！』を取り上げた。この『対決！』では、2人組というコミュニケーションの原点となる活動形態を中心とし、向かい合う対立した関係や、追いつ追われつの2人組の関係で踊る。この2人組の関係は、「表現」の学習で最も大切にしたい、『誇張（大げさに）する』『動きのメリハリ（時間の緩急と力の強弱）』が学びやすく、未知の想像とスリルに富んだ題材である。

また、中学校の第1学年及び第2学年の創作ダンスでは、『対極の動きの連続』『群（集団）の動き』などの題材が例示されている。小学校時に、『誇張する』ことや『メリハリをつける』こと、『そのものになりきって踊ること』の楽しさを十分味わい学習を経験しておくことが、中学校の創作ダンスの学習へとつながり、中学校でも、「表したいイメージや思いを、自由に動きを工夫して踊り表現する」という運動の特性にふれることができると考え、本単元では題材『対決！』を取り上げる。

○ 単元前半の小テーマの取り上げ方

本単元前半では、まずは教師のリードで小テーマの特徴的な場面や動きを示し、子どもたちがいくつかが踊ってみる活動を行う。単元前半の2時間で、『2人組の向かい合う対立した関係（2人の戦い）』と、『2人組の前後の関係（追いつ追われつ）』に重点を置く。その次の4時間目の学習では、その2人組の関係をいかしつつ、人数を増やして急変する動きやスリリングな展開が楽しめる小テーマに取り組む。つまり、取り上げる小テーマが単発的な学習ではなく、2・3時間目で学んだ即興表現の楽しさを味わう学習内容をいかし、4時間目では人数を増やして即興表現を楽しむ学習内容へとつないでいく。そして、単元前半で学んだ即興表現の楽しさをいかして、単元後半の「イメージ別グループ」で、ひとまとまりの動きにする活動へとつなげていくことができるよう、小テーマを取り上げた。（p8.教師のリードから、自分たちで動きを自由に再構成していく学習活動とも関連する）

【即興表現の楽しさを味わうための学習の進め方】

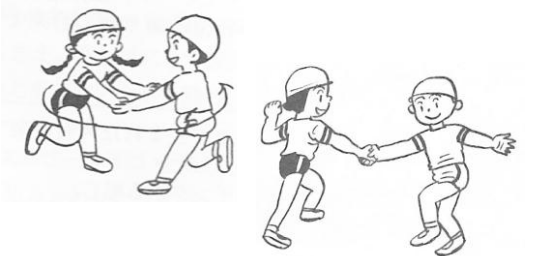
○ 授業導入時における、「リズムダンス」から「表現」の学習へつなげる活動

本学級の実態調査の結果から、「人前で踊ることが恥ずかしい」「踊る楽しさがよくわからない」「どのように動いてよいのかがわからない」という実態があった。このことから、前学年までの学習では授業導入部分で、心と体を十分に解放しないまま学習に入ってしまう、人前で踊ることの恥ずかしさを取り除くことや、全身で弾んで踊る楽しさにふれないまま、学習が進んでしまったことが推測される。

そこで本単元では、授業導入時において、踊りに没入できるような導入の工夫が大切であると考え、村田（2009）³⁾が述べている、『リズムくずしのおもしろさから、いつの間にか「表現」の学習へとつなげていく活動』を取り入れる。リズムダンスを毎時間の「表現」の学習の導入として帯状に位置付けることで、踊ることに対する不安感や抵抗感を取り除き、楽しく学習に入れるようにしていきたい。ここでは、以下の3つの点に重点を置く。

- ①気分を切らずに一気に1曲を踊る活動
- ②子どもたちが見てすぐにまねできるような動きを取り入れる
- ③体幹部（おへそ）でリズムに乗って弾んで踊る、リズムに乗る一くずず、空間を移動する動きを入れる

また、踊ることへの抵抗感や恥ずかしさをもつ子ども数名いることから、男女の2人組で向かい合う関係をつくり、いろいろな動きを自由に踊る活動を取り入れるようにする。友達とかかわり合いながら踊ることで、踊る雰囲気高め、多様な動きのおもしろさも発見できると考える。リズムで弾み、リズムに溶け込むことで、いつの間にか心も体も解放され、「表現」の学習へと自然につながっていくようにしたい。



【2人組で自由に踊る活動例】

- ①スキップで移動し、相手を見ながら踊る。
- ②手をつないで回ったり動きを掛け合ったりする。
- ③素早く動く・止まる。(リズムをくずすー止まる)
- ④1人が引っ張ったり、くぐり抜けたりする。
- ⑤互いのタイミングを合わせて場所を移動したりハイタッチをしたりする。

○ 教師のリードから、自分たちで動きを自由に再構成していく学習活動

本単元の前半では、題材からイメージを広げ、毎時間の小テーマに合った特徴的な場面や動き(本時身に付けさせたい動き)を、即興的なひと流れの動きにして踊って楽しむ活動を取り入れる。

ここでは、まず小テーマに合った特徴的な動きや場面を教師のリード(教師の言葉がけや教師が示した動き)で、子どもたちがまずはまねをして踊ってみる。その動きとしては、「素早く動くー急に止まる」や「ジャンプするー転がるー体をひねる」など、小テーマに合った特徴的な動き(教師が共通に体験させたい動き)をいくつか子どもたちがやってみる。その次に、教師の言葉がけからイメージした動きや教師が示した動きを、自分たちの材料やヒントとして、今度は子どもたちが自由に動きを再構成したり、ひと流れの動き(快い連続をもった一息で踊れるような動きのまとまり、表現的性格を出現させる最少単位)にしたりして、つないでいくようにする。この活動は、子ども同士にとって『応用の時間』となり、教師と一緒に動いた動きを再構成していくことで、自分たちの動きにうまれ変わっていき、即興表現をより楽しめる学習の場となると考える。教師がリードした動きや、言葉がけからイメージした印象に残っている動きをつなぎ、繰り返し踊ることで、即興表現の楽しさに十分触れさせていきたい。また、自分たちで自由に再構成をして即興的に踊ることを楽しむ学習経験は、中学校での「創作ダンス」の学習を、より意欲的に楽しく学べることに繋がっていくものと考えられる。

《どんな題材を・どんな動きで》(単元前半)

「対決！」のイメージと動き

2 時間目	3 時間目	4 時間目
2人の戦い	追いつ追われつ	危機せまる！
<ul style="list-style-type: none"> ・ギャングとスパイの戦い ・互いに撃ち合い、伏せろ！ ・敵が隠れている、そっと探せ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルの谷間をすり抜けて ・敵の気配を感じて・・・ ・敵がすぐそこに！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・敵が次々と現れ、攻めてくる ・味方が敵に、救出せよ！ ・閉じ込められた、出口を探せ！
向かい合う対立した動き 誇張と変化のある動き	追う追われるの対応した動き 走る・止まるなどの対極の動き	人数を増やした向かい合う対立した動きや追う追われるの対応した動き

○ 2人組での即興表現を楽しむ活動場面の充実をはかる

即興表現の魅力について、村田（1998）²⁾は、「予期しなかった偶然の出来事が他者とのコミュニケーションの中で起こり、共に踊る仲間と共感し合えるところにもある。一人で踊る時には予測しなかった動きを発見したり、他人がしかけてくる偶然のアクションに反応したりする面白さである。

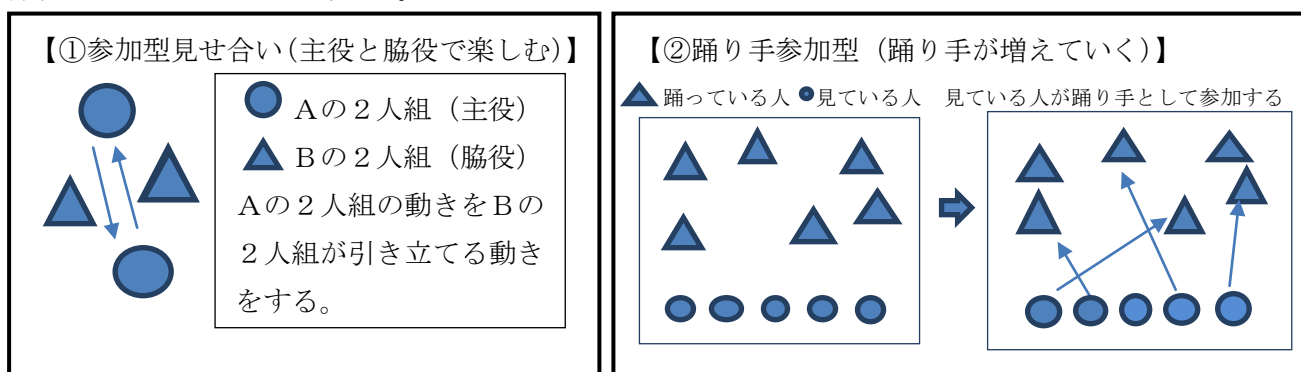
（中略）今持っている力で新鮮で生きのよい表現を実現する活動」と述べている。この即興表現の楽しさを子どもたちに十分味わわせていきたい。

本単元前半の、小テーマの特徴的な場面や動きを教師のリードで、子どもたちがいくつか踊って見たあとで、「小テーマから好きなイメージを選び、ひと流れの動きにして踊る」活動を行う。この活動の際には、男女の2人組で好きなイメージから即興的に踊り、激しい感じや急変する感じを動きにしていく。

2人組での即興表現を行う活動場面では、予想しなかった偶然の出来事が、相手とのコミュニケーションの中で起こり、共に踊る仲間と共感しあえることができる。また、動きをかけ合う中で、1人で踊るときには予測しなかった動きを発見したり、他人がしかけてくる偶然の動きに即座に反応したりする面白さがある。今もっている力で新鮮な表現が楽しめるところに即興表現のおもしろさがあることを十分楽しませたい。

この活動場面では、2人組での即興表現を楽しむ時間を十分にとっていく。そして、表現の学習で大切な、動きの『誇張』（一番表したいところを大げさに強調し変形すること）や、『メリハリ』（動きに時間の緩急や力の強弱がかけ合わさって生じるもの）を中心に動きを楽しませたい。実際に教師が子どもに動きを示す。その示した動きから、動き方の工夫や動きのつなげ方を確認する場面を設定していくことで、より2人組での即興表現の楽しみ方も広がるものとする。また、2人組での即興表現をもとに、2人組から4人組へと人数を増やして即興表現を楽しむことができるような小テーマを設定し、人数が増えたときの動きのおもしろさにもふれさせていきたい。

また、本学級の子どもの実態から、互いのよさを認め合う態度を身に付けることが必要であると考える。この「見せ合い」の場面では、自分たちの動きを発表する楽しさと、相手のよい動きを見つける楽しさの2つがある。本単元では、より即興表現の楽しさを味わう「見せ合い」として、ペアグループでの見せ合いに加えて、『参加型見せ合い』や『踊り手参加型』の活動を取り入れた。この見せ合いの活動を通して、即興表現の新たな楽しみ方にふれることができ、互いのよさを認め合うよさも広がるものとする。



<視点2> 一人一人のよさを伸ばすかわり合いを活性化するなど、学習に意欲的に取り組むための手立てを工夫する。

【双方向の関係を大切にした活動形態】

○ 子ども同士の双方向の関係を大切に活動形態

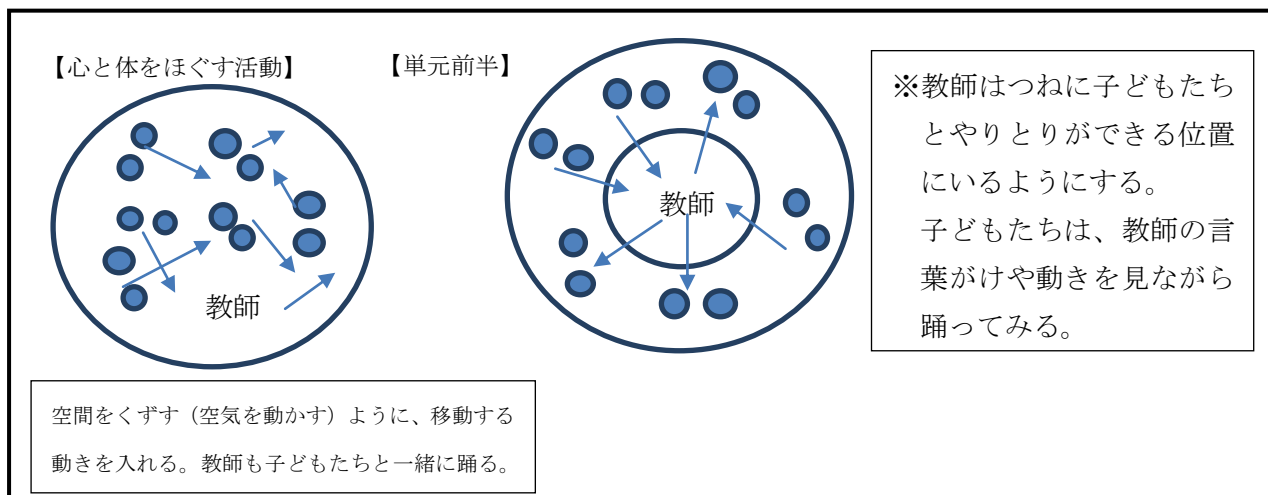
『心と体をほぐす』活動や、『小テーマからのイメージを即興的に踊る活動』では、毎時間相手を変える男女の2人組の活動形態を基本として、学習を進めていく。2人組という活動形態はコミュニケーションの原点であるにとらえる。また、男女の性別の違いや個性の違いをすべて受け入れていくことで、身体による豊かなコミュニケーションを育むものとする。

友達と組んで踊ることにより、1人で踊るときよりも踊る楽しさは倍になる。同時に相手の動きを見たりまねしたりすることは、いろいろな動きを発見するきっかけにもなる。相手と向かい合い、互いに動きを受信・発信し合うという、やりとりを共有する関係が生まれる。このような自由にかかわり合い、互いに動きをかけ合いながら踊る活動を毎時間取り入れるようにする。この男女の2人組での活動形態が、即興表現の楽しさを十分に味わうことができる最小単位の活動形態となることを検証していきたい。また、互いの動きを「見せ合う活動」でも、相手のよい動きやおもしろい動きを見つけたりアドバイスをしたりして、互いのよさを認めあう態度も育てていきたい。

○ 教師と子どもの双方向の関係を大切に活動形態

「表現」の学習では、心と体の解放は、活動する空間とも大きくかわるものとする。村田(2002)4は、表現やリズムダンスの学習における『空間』について、「教室の授業のように教師が前方に立ち、子どもたちが一定方向を向いた体操隊形できちんと並び、全員が教師のほうを向いた指導隊形(一斉指導型)は、表現運動系・ダンス系領域の学習にとっては、自然と子どもたちの心と体を拘束し、自由に踊ることができない空間である」と述べている。

そこで本単元では村田が述べるように、子どもたちが一定方向を向いた体操隊形で並び、全員が教師のほうを向いた活動形態ではなく、教師と子どもが双方向の関係がとれる活動形態で学習を進めていく。具体的には、教師も子どもたちと一緒に踊ったり、思い切り空間を移動しながら踊ったりして、踊る空間をくずすように移動しながら指導する活動形態をとる。また、『心と体をほぐす活動』や、学習活動の単元前半部分の小テーマからの特徴的な場面や動きを教師がリードしながら、いくつか即興的に踊ってみる活動において、教師のまわりを子どもたちが囲むような円形の活動形態をとる。そのような活動形態で教師が子どもたちと一緒に踊れば、教師と子どもの双方向のやり取り(教師が動きの材料やアイデアを発信する→子どもがそれを受信し動きにして教師に返す)が可能となり、踊る楽しさや喜びに十分ふれることができるものとする。このように、決まった正面を作らず教師も子どもも互いの顔を見合いながら踊れば、子どもたちもいつのまにか踊る世界に没入し、自由に踊ることができると考え、本単元では、教師と子どもの双方向の関係を大切に活動形態で学習を進めていく。



【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省 学校体育実技指導資料第9集 「表現運動系及びダンス指導の手引」 東洋館出版社 (2013)
- 2) 村田芳子 「最新楽しい表現運動・ダンス」 小学館 (1998)
- 3) 日本女子体育連盟 「保存版！ダンス指導ハンドブック Iー初めての指導・一歩進んだ指導ー」 女子体育 vol.51 7.8 (2009)
- 4) 村田芳子 「最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス」 小学館 (2002)

4 学習のねらい

- 「対決！」の表現に進んで取り組み、互いの動きのよさを認め合い助け合っ練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりしようとしている。 **【関心・意欲・態度】**
- 自分たちのグループのよさを知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、自分やグループのよさを生かす動きを見付けたりしている。 **【思考・判断】**
- 「対決！」から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとままとまりの表現で踊ることができる。 **【技能】**





5 評価規準（おおむね満足できる状況）

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・「対決！」の表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊る楽しさや喜びに触れることができるよう、表現に進んで取り組みようとしている。 ・約束を守り、友達と助け合っ練習や発表、交流をしようとしている。 ・運動する場の安全を保持することに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりしている。 ・自分やグループのよさを知るとともに、練習や発表会、交流会で自分やグループのよさを生かす動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対決！」から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとままとまりの表現で踊ることができる。
学習指導に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①「対決！」の表現に進んで取り組みようとしている。 ②互いのよさを認め合い、友達と助け合っ練習や発表をしようとしている。 ③練習や発表する場の安全に気を配ろうとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「対決！」のイメージから対決の特徴的な動きを見つけ自分の動きに取り入れている。 ②気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感じを強調できるように、動きに変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫している。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「対決！」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。 ②気に入った「対決！」のイメージの表したい感じを強調するように、「はじめーなかーおわり」を付けた簡単なひとままとまりの動きにして踊ることができる。

6 学習の道すじ (本時4/6)

	1	2	3	4 (本時)	5	6
0	心と体をほぐす活動 (「リズムダンス」から「表現」の学習へとつなげる活動)					
オリエンテーション ↓ 45	オリエンテーション	「対決！」のいろいろなイメージを、ひと流れの動きで即興的に踊る			好きなイメージを選び、グループでひとまとまりの動きにして踊る	
		2人の戦い	追いつ追われつ	危機せまる!	表したいイメージが強調されるように、ひとまとまりの動きにして踊る	発表会
		小テーマからのイメージを、いくつかみんなでやってみる			↓	
		小テーマから好きなイメージを選び、ひと流れの動きにして踊る			見せ合って感じを確かめ合い、アドバイスをし合う	
関	③	①			②	
思			①		②	
技				①		②

7 学習活動と支援

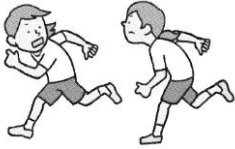
	学習内容と活動	教師の支援・指導・評価
はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <p>○学習のねらいや道すじ、学習の約束、安全面の確認をし、学習の進め方に見通しをもつ。</p> <p>○心と体をほぐす活動をする。</p> <p>○「対決！」からイメージすることを出し合う。</p> <p>○出し合ったイメージの中から、いくつか選んで即興的に踊ってみる。</p> <p>○踊ってみた感想を出し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇練習や発表する場の安全に気を配ろうとしている。【関心・意欲・態度③】</p>	
なか①	<p>1 心と体をほぐす活動</p> <p>♪「Rising Sun」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座った姿勢でリズムを取り、慣れてきたら立った姿勢になり、2人組で自由に即興的に踊る。 ・軽快なリズムに乗って全身で弾んで踊る。   <ul style="list-style-type: none"> ・「ギャングとスパイの攻防」の動きを楽しむ。   <p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。</p>	<p>○教師のリードで、座った姿勢で体幹部（おへそ）を中心に手拍子などでいろいろなリズムを取り、楽しむようにする。</p> <p>○教師の動きを目のふちでとらえながら踊るよう声をかける。</p> <p>○子どもたちが見て、すぐにまねできそうな動きを取り入れる。</p> <p>○その場でスキップをしたり体をねじったり素早く動いたりする動きを入れることで、リズムをくずして踊ることを意識させる。</p> <p>○男女の2人組で、空間を十分に移動し、いろいろな動きを楽しませるようにする。</p> <p>○素早い動きやスローモーションの動きを入れ、うんと大げさ踊るよう声をかける。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「対決！」のいろいろなイメージをひと流れの動きで即興的に踊って楽しむ。</p> </div> <p>3 教師のリードで、小テーマからの特徴的な場面や動きを、いくつかみんなで踊ってみる。教師のリードで急変する場面を入れながら即興的に踊る。 ※男女の2人組で活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2時間目「2人の戦い」 (互いに撃ち合い、伏せろ！敵が隠れている、ゆっくりそっと探せ！) ・3時間目「追う追われる」 (敵がすぐそこに、逃げろ！素早く追って！！) ・4時間目「危機せまる！」 (敵が次々と現れ攻めてくる、閉じ込められた、出口を探せ！) 	<p>○本時、身に付けさせたい動き（向かい合う対立した動き、追う追われるの動き、人数増やした戦いや追う追われるの動き、動きを誇張する）を、共通に体験させるようにする。</p> <p>○教師がリードした言葉がけや動きを、一緒にまねして踊ったり、イメージしたことをその場で踊ったりするよう声をかける。</p> <p>○子どもたちが自由に踊れるよう、教師の言葉がけ（イメージが膨らむ言葉がけ）を厳選していく。</p> <p>◇「対決！」の表現に進んで取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度①】</p>

【2時間目】 2人の戦い



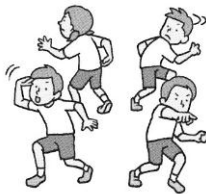
- ・互いに撃ち合い、伏せる！
- ・敵が隠れた、そっと探せ
- ・塀を乗り越え、転がる！
- ・相手をおびき寄せ・・・

【3時間目 追いつ追われつ】



- ・ビルの谷間を逃げろ、敵が追ってくる
- ・あたりを見わたすと・・・
- ・敵がすぐそこに、振り向け

【4時間目 危機せまる！】



- ・敵が次々と押し寄せる
- ・迷路だ、出口を探せ！
- ・上から何か・・・素早く逃げろ！
- ・暗闇の中をそっと忍び込む

4 小テーマから好きなイメージを選び、ひと流れの動きにして踊って楽しむ。

- ・2人組で好きなイメージを選び、緊迫した感じや急変する感じを即興的に踊って楽しむ。
- ・リーダーを交替しながら、いろいろなイメージを思いつくまま、ひと流れの動きにして楽しむ。

- 2時間目 「2人の戦い」
- 3時間目 「追う追われる」
- 4時間目 「危機せまる！」

5 一番気に入った動きを、ひと流れの動きにして互いに見せ合う。

- ・ペアグループでの見せ合い（2～4時間目）
- ・参加型見せ合い（2時間目）
- ・踊り手参加型の見せ合い（3・4時間目）

6 学習のまとめをする。

- ・学習カードに記入をする。

- 「ギャングとスパイの攻防」を中心に、大げさで変化のある動きを体感させるようにする。
- 実際には体に触れず、本当に戦っているように見せる表現のしかたや、動きの変化のさせ方（スローモーションや止まる動き、素早い動きなど）を、教師のリード（教師の言葉がけや動き）をもとに踊るよう声をかける。

- 同じ動きを3回繰り返して踊ったり、リズムをくずした動きを入れたりすることで、友達の予想を外すおもしろさがあることに気付かせる。

- よい動きをしていた子どもを取り上げ称賛することで、動きのよさを全体に広めるようにする。

◇「対決！」のイメージから対決の特徴的な動きを見つけ自分の動きに取り入れている。

【思考・判断①】

- 教師がリードした動きを材料（ヒント）にして、今度は自分たちで自由に動きを再構成して踊ることを確認する。

- リーダーを交替しながら踊ることを確認する。

- 強調したい場面をうんと大げさに動くことや、素早く走るー止まるなど、メリハリ（緩急強弱）のある動きを楽しむよう声をかける。

- 動きすぎてしまう場合は、教師のほうで止まる動きやスローモーションの動きなど、メリハリをつけるような言葉がけをして、動きのおもしろさにふれさせるようにする。

- 大げさな動きや、動きに変化をつけている2人組を取り上げ称賛することで、よい動きを全体に広めるようにする。


◇「対決！」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。

【技能①】

- ペアグループでの見せ合いのほかに、参加型見せ合いや踊り手参加型の見せ合いも取り入れることで、友達のよい動きや即興表現の楽しさにふれさせるようにする。

- よい動きやおもしろい動きを見つけたり、友達に動きのアドバイスをしたりして、互いのよさを認め合うようにする。

- 本時学んだことを振り返ることで、学習意欲を高め、次時の学習へとつなげるようにする。

な か ②	<p>1 心と体をほぐす活動</p> <p>♪「Rising Sun」</p> <ul style="list-style-type: none"> 座った姿勢でリズムを取り、慣れてきたら立った姿勢になり、2人組で自由に即興的に踊る。 軽快なリズムに乗って全身で弾んで踊る。 「ギャングとスパイの攻防」の動きを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師のリードで、座った姿勢で体幹部（おへそ）を中心に手拍子などでいろいろなリズムを取って、楽しむようにする。 ○教師の動きを目のふちでとらえながら踊るよう声をかける。 ○子どもたちが見て、すぐにまねできそうな動きを取り入れる。 ○その場でスキップをしたり体をねじったり素早く動いたりする動きを入れることで、リズムをくずして踊ることを意識させる。 ○男女の2人組で、空間を十分に移動し、いろいろな動きを楽しませる。 ○素早い動きやスローモーションの動きを入れうんと大きさに表現するよう声をかける。
	<p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 好きなイメージを選び、グループでひとまとまりの動きにして踊って楽しむ。 </div>	
<p>3 イメージ別グループを確認する。</p> <p>4 「はじめ—なか—おわり」の3つの場面で、ひとまとまりの動きにして踊る。</p> <p>【毎時間の動きに関するポイント例】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①強調したい動きをくり返し踊る。 ②激しい部分やダイナミックな部分が際立つよう緩急強弱をつける。 ③長く創りすぎず、強調したいところだけを残す。 ④はじめ方やおわり方を印象づける。 ⑤表したいイメージが伝わるようなタイトルを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○单元前半で、自分が一番楽しかったイメージや動きを選び、同じ（似た）ものを選んだ友達と、单元後半はイメージ別グループで学習することを確認する。 ○一番表したい場面が強調されるように、動き方（大きさに動く、リズムをくずす）や空間の使い方、体の使い方、友達とのかかわり方などに変化をつけるよう声をかける。 ◇互いのよさを認め合い、友達と助け合って、練習や発表をしようとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よい動きをしていた子どもやグループを取り上げ称賛し、そのよさを全体に広めていくようにする。 ◇気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感じを強調できるように、動きに変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫している。 <p style="text-align: right;">【思考・判断②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇気に入った「対決！」のイメージの表したい感じを強調するように、「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして踊ることができる。 <p style="text-align: right;">【技能②】</p>	

<p>な か ②</p>	<p>5 ひとまとまりの動きを見せ合い、互いによかったところをアドバイスし合う。(6時間目は発表会)</p> <p>6 アドバイスをいかして、もう一度踊ってみる。</p> <p>7 学習のまとめをする ・学習カードに記入をする。</p>	<p>○一番表したい部分が強調されているか、なりきって踊っているか、(顔の表情や視線) 友達とかかわりあって踊っているか、空間を意識して踊っているかなど、見る観点をいくつか示し、友達のよい動きを見つけるよう声をかける。</p> <p>○よい動きや、はじめ方やおわり方の印象がよかったグループを取り上げ称賛し、よい動きを全体に広めるようにする。</p> <p>○友達からアドバイスをしてもらったことをいかし、「はじめーなかーおわり」のひとまとまりの動きを、もう一度踊るよう声をかける。</p> <p>○イメージを体で表現することの楽しさや、友達と即興的に踊る楽しさ、友達と協力してひとまとまりの動きにしていく楽しさなど、「表現」の学習を通して学んだことを発表したり、学習カードに記入したりして、学習を振り返る。</p> <p>○よい動きや印象に残った動きを振り返ることで学習意欲を高め、今後の「表現」の学習へとつなげていくようにする。</p>
<p>ま と め</p>	<p>8 学習のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「表現」の学習に進んで取り組み、即興的に踊る楽しさにふれることができたか。 ・学習のきまりを守り、安全に留意して楽しく学習することができたか。 ・イメージから特徴的な動きを見つけて、自分やグループの動きに取り入れることができたか。 ・気に入ったイメージを選び、表したい感を強調できるように変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫することができたか。 ・よい動きを見つけ、自分にいかすことができたか。 ・ひと流れの動きや、ひとまとまりの動きにして踊ることができたか。 	